

もしシャンフロのモン
スターがデンドロに現
れたら

疾駆八苦

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

とある神ゲーにて、プレイヤー達の前に立ちはだかつてきた幾多ものモンスター達、彼らが無限の可能性を謳う世界に現れたときどのようなようになるのか

これは、作者の妄想を書いたものです。内容は、タイトルの通りです。ヘタクソな文章ですが、よろしくお願いします。

あと感想と評価もお願いします。

目次

設定

特典武具及びドロップアイテムの設定

どんなゲームでも金策は大事 | 45
エリアボス狂奏曲 | 51
ある日、沼荒野にて | 56

世界観の設定 + α | 7

ユニーク編

【天雄墓守ウエザエモン】 | 13

【深淵転蝟クターニツド】 | 19

【夜襲影狼リユカオーン】 | 27

【天覇龍王ジークヴルム】 | 31

【冥響劇場オルケストラ】 | 35

名も無きモンスター編

ウォーバル・サーベイ | 40

設定

特典武具及びドロップアイテムの設定

作者です。ネタや話の構想が思いつかないので息抜きに前々から考えていた、設定と
いう名の妄想を置いときます。今後増える可能性あり

22023 : 4 / 4 新規特典武具及びドロップアイテムの追加。一部テキストの変
更。

22023 : 5 / 31 新規特典武具及びアイテムの追加。

【天雄墓守ウエザエモン】

特典武具：【天危予刀ウエザエモン】
てんきよとう

形状：ウエザエモンの太刀と同じ（大きさは所持者に合わせている）

装備補正：STR+10%

装備スキル：《晴天大征》《天晴》

《晴天大征》：ウエザエモンが使う技を六つのスキルとして再現するスキル。ただし半径

1500メートル以内の天気の様子で使えるスキルが変わる。は再使用時間^{リキャストタイム}全て10秒

晴れの場合

《断風》《入道雲》《大時化》

くもり、雨、その他の場合

《雷鐘》《火砕龍》《灰吹雪》

《天晴》：半径1500メートル以内の空に雲が一つもない場合にのみ使用可能。刃部分に即死効果、装甲貫通、装備破壊、魔法貫通、スキル貫通、回避不可の効果がついた斬撃を放つ。再使用時間^{リキャストタイム}は24時間

ドロップアイテム

【戦術騎馬騏驎（破損）】

未知の技術で作られた人工の馬。だが破損しており直すのは困難。だがもしもこれと酷似した技術がありそれ相応の設備があれば修復できるかもしれない。

【格納鍵インベントリア】

未知の技術で作られたアイテムボックス。既存のアイテムボックスを遥かに超える性能を持っている。

【深淵転蝟クターニツド】

特典武器：【ハ転聖杯クターニツド】
はってんせいはい

形状：八つの色に光る杯

装備補正：なし

装備スキル：《世界は反る》
まわ

《世界は反る》

使用時に半径800メートルの結界を貼り、結界内の「理」コトワリを8回まで反転させること
とができるスキル。8回目を超えると自動で結界は解かれる。
リキャストタイム再使用時間は八日

ドロップアイテム

【深淵の警鈴】

それは人類に警告を告げる鈴

???
【眷属・族】 また【化身】に反応して持ち主に危機を告げる。

【夜襲影狼リユカオーン】

特典武器：【Q極きぐるみしりーず りゆかおーん】

形状：着ぐるみ（リユカオーン）

装備補正：AGI+80% STR +80% 防御力+600

装備スキル 《影狼造像》 《影移動》 《夜闇同化》

《影狼造像》

《影移動》 《夜闇同化》のスキルを内包した影狼を2体作り出すスキル。

《影移動》

影の中を移動できるようになるスキル。

《夜闇同化》

夜間のみ使用できるスキル。夜闇と同化し透明化、物理攻撃無効化を付与する。

ドロップアイテム

※現状では確認されていない

【天覇龍王ジークヴルム】

特典武具：【龍^{りゅうろきぞう}炬^{きぞう}機^{きぞう}臓^{ぞう}ジークヴルム】

形状：機械化した心臓

装備補正：なし

装備スキル：《龍王機関》

《龍王機関》

心臓を過剰稼働させスキルや魔法などの出力を跳ね上げる。発動すると自身のMP

とSPを二倍にし、魔法、スキルの効果上昇、再使用時間リキャストタイムの半減、一部のデメリット無効化の効果がつく。そのかわり発動した瞬間からHPの最大値が減っていき最終的に1となる。発動中に死亡すると再ログイン時に特殊状態【汚染混血状態】となり、魔法またはスキルのどちらかが使用不可になる。

ドロップアイテム

【黄金の龍灰】

黄金に輝く龍の灰。何かの素材となるようだが？

【霊角の残影】

「偉業」という概念が具現化したもの素材として使うには特別なジョブが必要。

【冥響劇場オルケストラ】

特典武器：【演劇人形オルケストラ】
えんげきにんぎょう

形状：征服人形と同じ（型はランダム）

装備補正：なし

装備スキル《：あの日の激闘をもう一度》
バトル・ユア・アンコール

《あの日の激闘をもう一度》

モンスター由来のアイテムを消費することで人形がそのモンスターを再現し共闘す

ることが可能。再現時の姿である再現形態と人形の姿の人形形態は任意で切り替え可能。完全に再現することは出来ず、ステータスやスキルが一部弱体化されて再現する。再現出来ないモンスターはなく、UBMも再現可能。

備考：人形には明確な自我がある。隠しパラメーターとして好感度が設定されており、好感度によって性能が変化する………かも。

アイテム

【古いチラシ】

オルケストラ内で入手可能

未知の言語で書かれたチラシ。マイクを持った少女が写っている。言語の解読は不可能だが一番下に何かの番号と何処か知らないない地図が載っていることが分かる。

ある特定のクエストに必要。

世界観の設定十α

久しぶりに自分の作品を読み返していたらなんだかごちゃごちゃしてたので一旦整理しようと思いました。どっかで食い違いがあるかもだけとそこはスルーでお願いします。

あと本当に今更ながらですが、お気に入り、感想、評価してくださった皆様方本当にありがとうございます。こんなノロマ投稿な作品ですが出来るだけ失踪しないよう頑張っていきたいと思います。

◆世界観

デンドロとシャンフロは完全に別の世界。デンドロの世界にシャンフロはないし、シャンフロの世界にデンドロはない。

仮に同じ世界だったら継久理の場合たぶんめちやくちや嫉妬するし、ハッキングなんかもしようとするけど最終的にシャンフロキャラの中で一番デンドロをエンジョイし

てると思う。

◆モンスターについて

何故デンドロに現れたのかは謎。

てかぶつちやけ特に考えていない。

一応モンスターはシャンフロ本編ではなくコピー的な何かってところまでは考えた。

終わり

……………少な!

ウツソだろお前設定なさすぎだろ。

最初のやつはどうした何が『ごちやごちやしてたから整理する』だ!こんなスカスカ設定で整理もクソもねえじゃねえか!

まあこの作品、見切り発射で書いたからねしょうがないね。

というわけで文字数が足りないので急遽おまけを書くことになりました。

おまけ

シヤンプロUBM案

とりあえず思いついたのを書きました。

名前は適当。

【致命二撃ウオーバルニー】

格上の外敵から身を守るために敵に致命傷を与えることを極めたウオーバルバニー。

スキル《致命的な一撃》ウオーバルニアタックによりどんな格上にも急所に当てれば全て致命傷となる。

しかし致命傷を与えることを極めすぎた故に逆にどんな格下でも一撃で仕留めることは叶わない。

作者の解説

普段は普通のウオーバルバニーと一緒に群れている。

見た目はほとんど原種と同じだから見分けがつかず群れと乱戦になるととても厄介。

【永炎視蝶ダイセキシ】

それは見ていた。長く永くずっと見続けていた。あの日、あそこで、目覚め、眠り、こ

こで、目覚めた時から。

人を、街を、文明を。

蝶は見続けていた。

作者の解説

個人的シヤンフロ内最強候補

前々からニラ蝶の話を書きたいと思ってただけど管理AIと殴り合いさせるぐらいしか思いつかない。たぶんトムくん相手なら普通に勝てると思う。

デンドロ版ニラ蝶は原作と比べて強化されている。

強化内容

「火葬光」たきぎのまなざし「魔力発火現象」

薙ぎ払いモーシヨンの追加

「多面展開灼眼写」よりどりみどり

敵1人に対する「灼眼球」の個数を3個に増加し対象を囲むように生成されるなど

Q上の怪文書なんなんですか？

A今のニラ蝶くんの趣味でえ、放置系リアルタイム文明構築シミュレーションって言うんだけど。

【千魚一体カイセンオー】

あの海鮮合体ロボ？がパワーアップして帰って来た！

右腕のカイセンスピアは全てを貫き、

左腕のカイセンシールドは全てを防ぐ！

さらに追加武装で右肩にアークリウム・ハーミッド、左肩にスレーギウン・キャラア

ングラー、胸にアトランティス・レプノルカを装備！

さあ必殺のカイセン・ブレスト・ビームで敵を木っ端微塵にするのだ！

今日も海の平和を守るため、戦え！カイセンオー！

作者の解説

強おおい！説明不要！

……………はい説明します。

トリニティ
三位一体とカイセンオーの悪魔合体です。

しかもそれだけでなく実はそれぞれのエクゾーディナリーなんかもちやつかり合体している。あーもーめちやくちやだよ。

カイセンオーの装備

頭部：エルトランサ

右肩：アークリウム・ハーミッド

左肩：スレーギウン・キャラアングラー

胸部：アトランティス・レプノルカ

右腕：”プロモスピア覇頭衝角”

左腕：”ルインスロン廃罪玉座”

背部：”コンバベツト傀儡羅針”

両足：名も無きUBM達とその他

意味のない合体がエルトランサくんを襲う！

ついでにここが何気にヤバイよカイセンオー

その気になれば地上で活動できる。(なんで???)

以上終わり!!!

ユニーク編

【天雄墓守ウエザエモン】

お試しで書きました。

小説を書くのも投稿するのも初めてなので温かい目で見てください
あとシャンフロのクロスオーバー作品増えて

??天地

彼岸花が咲き誇っているある花畑で1つのへマスターのクランが一体のへUBMに
よって壊滅しかけていた。

「ギャツ!?!」

「なっ!また1人やられたぞ!」

(クソツ!どうしてこうなった?こんなことになるんだったらこんなクエスト受けるん
じゃなかった!)

このクランのリーダーは後悔していた。

ことの発端はあるクエストを受けたことだった。

その内容はある花畑にいる〈UBM〉、「天雄墓守ウエザエモン」を倒してほしいというものの、このクランは全員が上級エンブリオになっており、特にリーダーは、準〈超級〉であり、〈UBM〉もすでに2〜3体ほど倒しており今回も大丈夫だろうと全員が思っていた。このときは、

そしてクエストを受け、花畑でウエザエモンと相対したが、ウエザエモンは、〈マスター〉を、見ても動こうとしなかった。それを不審に思いながら1人の〈マスター〉が近づこうとして、

「断風」

「えっ」

いつのまにか切られていた。

「一撃で!?!」

「見えなかったぞ!」

その速すぎる居合に動揺はしたもののすぐ立て直し攻撃したが

「硬!」

「全然、効いていねえ!?!」

だがその攻撃も〈UBM〉には効かず、そのまま攻撃していたくマスター達は、太刀を振り下ろされて死んでしまった。それを見ていったん離れようとしたとき、1人の〈マスター〉が気づいた。

「なんか動きが遅くないか？」

このクランの〈マスター〉の平均レベルは約500程なのだが、それにしても動きが遅すぎるのだ。

そのメンバーの声を聞いてリーダーは、原因を探ろうと自分のステータスを見て……絶句した。

「おい！レベルが50になってるぞ!!」

「はあああああ!!」

そう、もう少しで600になりそうだった彼のレベルは、信じられないことに50まで下げられてしまっていた、それに伴いステータスも下げられている。しかもよく見れば、他のメンバーも自分と同じ状態になっている。

対してウエザエモンのレベルは、本来〈UBM〉には、ありえないはずの、200。上級エンブリオになっていてもレベル150の差は大きく、さらに今までのステータスに慣れきっていた〈マスター〉達は、あつという間に蹂躪されていた。

そんな中、準〈超級〉である、リーダーは、なんとか生き残っていた。

「今、他に何人生き残っている?」

「えー、3人だけですわね。」

「雷と雲でできた手による薙ぎ払いで半数以上が逝ったしな。」

「リーダー、どうする?このままだとやばいよ。」

（確かにこのままだと全滅……動きも充分見れたしこちらで撤退するか。）

そうしてリーダーがメンバーに撤退を指示しようとしたとき、

ウエザエモンの動きが止まっていることに気づいた。

「止まった?」

「ひよつとして攻撃効いてた?」

もしかしたら倒せたんじゃないかと期待するへマスター達、しかし、そんな期待も

長くは続かなかった。

「…質量転送、エクスポート及び展開、サモンコール、戦術騎馬…【麒麟】」

そうウエザエモンが呟くと、巨大な魔法陣が現れそこから馬の形をしたロボットが呼

び出された。

「でかつ!?!」

「馬、なのか?」

「足が生えたダンパーの間違いじゃない?」

【騏驎】は、へマスターへを見るやいなやその方向にレーザーやミサイルを撒き散らしながら突っ込んできた。

「ちよつとこつちに來たんだけど!」

「なんで皇国にいそうなやつが天地にいるんだよ!」

「あつー人流れ弾でやられた。」

リーダーは必死になってこの状況でどうすれば無事に撤退できるか、考えようとするが、

「リーダー!後ろ!!」

「えっ」

振り返るとそこにいたのは、ウエザエモンだった。

「あつ」

【断風】

そしてリーダーが最後に見た光景は、太刀を振り下ろした、ウエザエモンの姿だった。そうしてデスペナを食らい現実に戻ってきた彼は、こう呟いたという

「クソゲーかな?」

【天雄墓守ウエザエモン】

ほとんどシャンフロ原作と同じ、デンドロだと完全にぶっ壊れなヘイレギュラーと化しているがなんだかんだエンブリオやジョブしだいで倒せる。

例

クマにーさん（普通に太刀を破壊してあとは自前のプレイヤースキルでいける。）

あとウエザエモンの第一、第二段階^{フェイズ}は、攻撃を無効にするのではなく、あくまでスーパー^{フェイズ}アーマーとダメージ軽減で受けているだけなので、攻撃力に特化したエンブリオなら理論上第一段階^{フェイズ}で倒せる。

【深淵転蝟クターニツド】

遅くなりました。作者です。妄想がまとまったので投稿します。

注 今回は原作キャラが出てきますが、原作での登場シーンが少ないので所々想像で補ってる場合があります。そういうのが駄目な人はごめんなさい。

そして当然のように駄文です。

??グランバロア

「海賊船しか襲わないへUBM?」

「そう！今、グランバロア中で話題になってるんだ！」

「へー」

彼の名前は、醤油抗菌。

グランバロアの超級の1人であり、ゲーム雑誌のライターで自身がデンドロで体験したことを本にして出版している。

彼は現実^{リアル}での用事で二日間、ログインしていなかった。

そして彼がいない間、グランバロアであることが話題になった。

彼は、自分がいない間なにが起こったのか、近くのティアンに話を聞いてみた。

ある日、急に海賊が現れなくなったこと、それを不審に思ったギルドが調べると〈UBM〉が関わっている可能性が出てきたこと、先日の〈SUBM〉の出現のこともあり、念のため超級の〈マスター〉がいるクラン、〈冒険船団〉に討伐を依頼したこと、そして数日前に討伐に向かったこと

ティアンから分かったことは、それだけだった。

この時点ではまだ彼は、その〈UBM〉に対し、ちよつと変わった〈UBM〉という認識だった。

しかし調査に行った〈マスター〉達が全滅したという知らせを聞いたときその認識が間違っていたと知る

ただ単に全滅しただけなら〈UBM〉相手だと珍しくないことなのだが、全滅した〈マスター〉達の中に超級の〈マスター〉も含まれていることが問題だった。さらにこのことが原因なのかその超級を打ち負かした〈UBM〉は、海賊だけではなく、〈マスター〉が乗っている船も襲い始め、事態は、深刻になっていった。

そしてギルドは、これ以上事態が深刻化しないようグランバロア最大戦力にして最強

の〈マスター〉、醬油抗菌に討伐を依頼した。

ギルドから依頼を受けた彼は、事前に討伐に行った〈冒険船団〉の〈マスター〉にその〈UBM〉の情報をもらい、彼が所属しているクランのメンバーと共に船に乗り込み〈UBM〉討伐に向かった。

しばらく船を進めると彼の《殺気感知》が反応する。

「来たか。」

彼がそう呟くと同時に八本の蝮の足が現れ他の〈マスター〉が反応する前に船は海中へ引き込まれていった。

気づけば〈マスター〉達は、コロッセオに立っていた

「……事前に聞いていたとはいえ、本当にどうなっているんだ？」

海の中にコロッセオがあるのはともかく立つことが出来たり、息が出来るのは、恐らく〈UBM〉の能力の一つなのだろう。

そしてその〈UBM〉は、〈マスター〉達の前に現れる。

八芒星を模した魔法陣から触手と目玉が生えたまさに異形というような〈UBM〉……【転杯深淵クーターニッド】は、〈マスター〉達に枝分かれした、己の足を突き刺す。

しかし〈マスター〉達は、来るのが分かっていたかのように避け、地面に突き刺ささつ

た触手に攻撃を仕掛ける。それを数回繰り返すと、クターニッドは、八芒星から巨大な蝟を模した立体的な魔法陣になり、杯を持った触手を八本、生やして地面に降り立った。「第二形態になったぞ！杯を狙え!!」

彼は、メンバーに事前に共有していた情報を確認するかのように言った。

彼が〈冒険船団〉の〈マスター〉や遭遇した〈マスター〉から得た情報は、まず第一形態の攻撃パターン、第二形態形態でのダメージの与えかた、八つのうち赤、橙、黄、緑の杯の効果である。

そして彼らは、杯の色が変わるたびそれに合わせた攻撃を仕掛け、赤、黄、緑の杯を破壊することに成功した。

そうして杯が五つに減ったとき、唐突に青色の杯が光る。

「うお!?!」

「眩し!?!」

〈マスター〉達は思わず目を閉じた。

「お前ら大丈夫か……あれ?」

仲間の様子を確認しようとして彼は、自分の声が女性の声に変わっているのに気づく。

そして見れば身体も変わり、周りを見渡せばこの場の全員が変わっていることが分か

る。

「性別の反転!？」

「五時間掛けて作った俺のイケメンフェイズがああ!」

「ちよつと変なのが生えたんだけど!」

「よつしやあああー!!」

この性別の反転という特殊すぎる状況にへマスターへ達は、阿鼻叫喚となる（何故か一部のへマスターへは、歓喜していたが）

さらにその隙を使いクターニツドは藍色の杯を使う。

「なっ?!生えた!？」

藍色の光りが収まると破壊したはずの三つの杯と触手がまるで何事も無かったように生えていた。

（まずい、このままじゃ埒があかない、かといってへエンブリオへで爆破しようにも時間がかかる、あれならいけるか?）

そう考えた彼は、ある超級武器の使用を決意したとき、

ゴゴゴゴ…

どこからかまるで洪水が迫ってきたような、音が聞こえる。

それと同時にクターニツドは、ある方向を睨みつけた。

『人よ今回はここまでだ』

「えっ？ 喋っ」

その瞬間、彼は、HPが0になり死んだ。

クターニッドによって生きているといふ状態を反転させられた〈マスター〉達は即死し、この場にはクターニッドだけとなった。

『……………』

しばらく静寂が訪れる。

ブワ!!

突如なにもない空間から「青色」が溢れだした。

そして、そのまま全てを飲み込まんよと溢れでる「青色」を前にクターニッドは反転し

……………

そして誰もいなくなった。

【転杯深淵クターニツド】

海賊や（マスター）を襲った理由は、

クターニツドは比較的最近になって現れたのでこの世界の人類を「評価」するため、大急ぎでサンプル集めしてたから。

【??】

青色のやべー奴

久しぶりにシャバに出たと思つたら何故か異世界で状況確認する暇もなくクターニツドに出オチさせられた。

クターニッドに存在そのものを反転させられたので現在、
存在してないというクツソ面倒なことになっている。 本当は存在するけど実際は

【夜襲影狼リユカオーン】

作者です、シャンフロ第一弾PV見ました。

てつきり7〜8月に放送開始すると思ったの自分だけでしょうが？

??アルター王国

ある平野にて1匹の狼……否、影狼がいた。

影狼の名は「夜襲影狼リユカオーン」、かつてとある世界^{ゲーム}で「夜襲のリユカオーン」という名のモンスターが作り出した分身が「UBM」化したものである

奇しくも本体と同じく「夜襲」の名を冠した「UBM」となった分身……影狼は思う
” 嗚呼、強者と戦いたい”と、

本体である「夜襲のリユカオーン」には、「強者を好む」という性質がある。それは本体から作られた分身も例外ではなく、影狼は強者を求めて放浪した。

龍の血を継ぐ一族が統治する国

争いが絶えぬ戦乱の島国

高度な文明が発達した機械の国

多種多様な種族が暮らす国

複数の海上都市から成る海洋国家

劍聖王が建国した王国

強者を求めて様々な国を放浪した、その道中にも様々なモンスターや人と戦ったが強者と呼べる者はいなかった。

だから「マスター」と呼ばれる、本体がいる世界という開拓者に似た者が現れ始めたときは期待した。もしかしたら今まで自身が認めてきた強者の中で特に印象に残った彼みたいなのが出てくるかも知れないと思った。しかし結果はハズレ。いやたしかに、圧倒的な破壊力を持つ「破壊王」、自由自在に手足を操る「応龍」など、強い者はいるが自身が求める強者……彼のような者はいなかった。そしてそれから数年……

影狼は今日も強者を求めて放浪していた。するとどこからか、金属音が聞こえる。それが何かか戦っている音だと気づいた影狼はすぐ、その場所へ急行した。そこでは鬼と黒い大剣を持った青年と青年の仲間と思われる者達が戦っていた。そして青年が鬼の頭部を粉砕するが鬼は倒れず青年を弾き飛ばす。

終わりか、そうが判断しようしたとき影狼は見た。

「まだだ……」

そう言いボロボロになっても立ち上がる青年の姿を、恐らく体力はほとんどないだろう、それに動きを見る限りなんらかの状態異常にも掛かっているだろう。それでも青年は諦めていなかった。

その姿に影狼は思った。

”似ている”

あの世界の彼に、鳥の覆面を被り、双剣を携え、たった2回目でリュカオンの分身を打倒してみせた彼に。

思わず口の端を歪めて笑ってしまう。嗚呼、やっと見つけた、戦わなくても分かる、あいつこそが今まで求めていた「強者」。

だが今は、まだ経験が足りない。しばらくは、様子を見るだけにする、もしいつかその時が来たのなら……

そして青年が鬼の腹を粉碎するのを見ながら影狼は笑っていた。

【夜襲影狼リュカオン】

本体と比べて分身能力が強化され、元々分身なので身体が非物質でできているため物理攻撃が効きにくい。

〈UBM〉化したことにより自我が芽生え始めている。

またこの分身は、サンラクに倒された分身の次に作られたので本体を通し、サンラクのことがとても印象に残り、強者Ⅱサンラク と考えている節がある。

ネタ切れしたのでしばらく投稿休みます。by 作者

【天覇龍王ジークヴルム】

作者です。

今回は難産でした。

2023、9/4 ちょこつと修正

??アルター王国・城塞都市クレミール

城塞都市クレミール。

王国の北西にある国境と王都の中間地点に存在するこの都市にある重大な作戦が行われようとしていた。

その作戦の内容は、〈SUBM〉、〔三極竜 グローリア〕の討伐である。

ある日突然現れた「グローリア」は、「雷竜王 ドラグヴォルト」を殺し、ルニグンス侯爵領を壊滅させ王都へ進行。それを止めるため、王国は、此処、クレミールにて陣を張り迎え撃つ構えを取る。

王国の戦力は、「大賢者」の徒弟であり、数は少ないがいずれも400レベルを超えている、ティアンでは有数の「賢者」達、逆にもっとも数が多く「司祭」「教会騎士」「僧兵」などの聖職者達、次にそれらと少し離れて配置し、〈戦車型マジンギア〉―「ガイスト」を操る皇国の援軍である皇国第二機甲大隊、そしてクレミールに展開されている防衛結界から離れた平原に陣を構える「マスター」の集団……王国クランランキング第二位、〈バビロニア戦闘団〉の四つである。

作戦の内容は、まずは〈バビロニア戦闘団〉の遠距離攻撃部隊が「グローリア」のヘイトを稼ぎ、徒弟と聖職者達が大規模な魔法などによる波状攻撃を仕掛けて動きを封じ、皇国の切り札となる兵器を使う。もし、兵器を耐えた場合は〈バビロニア戦闘団〉の最精鋭で討伐する手筈となっている。

そして各々が作戦に向けて準備しているなか、〈バビロニア戦闘団〉のオーナー……
【剣王】 フォルテスラにある報告が届く。

「……分かった。はあ、幸先が不安だな。」

「団長？どうかしたの？」

彼の〈エンブリオ〉でTYPE：メイデンwithエルダーアームズであるネイリングが問いかける。

「ああ、さっきまでグローリアを偵察していたメンバーからの連絡が急に途絶えたらし

い、恐らくグロリアにやられたんだらうがっ!」

そのまま言葉が続けようとしたとき、突如、地響きが起きる。そして地平線の彼方からソレらは現れた。

現れたソレら……グロリアと思われる竜と「腕」や「手」を持った二足歩行の龍が争いながら向かってくる。しかしグロリアの方はすでに二本あつたはずの首は千切れ、胴体と同じほどの大きさを持つ翼膜には穴が開き、全身が焼け爛れているのに対し龍は無傷であつた。

グロリアは困惑し、怒り、恐怖した。何故だ、何故効かない? 弱者を排除し、外からの攻撃を無に返す結果も A G I や判断が遅い者を殲滅する極光のブレスも何故あの龍には効かない! 何故あの龍の息吹は結界を通り抜ける? 何故あの龍の結界を張つただけでブレスが吐けなくなる? 何故だ……何故……?

そうして本来ならクレミールを壊滅させ多大な被害を出していたはずだった竜………「三極竜 グロリア」はそのまま龍の息吹に焼かれあつてなくその命を落とした。

龍は咆哮する

” おお英雄よ、この龍災に立ち向かわんと集いし英雄達よ。 ”

” 見せてくれ、戦禍においてただ一つの輝きを”

” 超えて見せよ我が試練、さもなくば、いづれ世界は色災によつて塗り潰されよう。

”

かくしてのちに〈龍王来襲事変〉と呼ばれるこの戦いは、今こうして幕が上がった。

これは……原作崩壊なのか？

尚、作者はこの後の展開は考えておりません。

【天覇龍王ジークヴルム】

今回の戦犯、グロリアを始源と間違えて殺した拳句、始源もないのに「お前ら！ 始源には注意しろよ！」と完全に無意味な忠告しちやう天然？

【三極竜 グロリア】

今回の被害者。一応バックアップはあるため生きている。

その後〈龍王来襲事変〉の終盤にジークヴルムにカチコミした模様。

【冥響劇場オルケストラ】

久しぶりの作者です

最近、デュエブレにハマりました。全然投稿してなかったのはそのせいです
メイ様は可愛いですね、ただしドン吸い、テメーは駄目だ。

荒廃した大地の中心にて一人の男がいた。男は奇妙な風体であり、頭に熊の皮を被り、背中には頭部の頭部から繋がる毛皮がマントになっている。そして下半身は、頭に被った毛皮と同質の、黒い袴に似たズボンを履いている。その男そばには巨大な戦艦があり、その砲塔から煙が出ており火薬の匂いが周囲に広がっている。砲塔の先には全長100メートル以上ある怪獣が倒れ伏していた。周りには大量の瓦礫や巨大な足跡、大小様々なクレーターなどがありここでの戦いの激しさが窺える。

そこに無機質な声が響く

『ローロー「シユウ・スターリングの紡いだ物語」第四楽章…「女王、進撃」……クリア』
すると男の視界は真っ白になり、それが収まるときには周りの景色は、ガラツとかわ

り、地面はまるで学校のグラウンドのように砂に覆われ、周囲には囲むように観客席が現れ、しかし観客の姿はなくなっている。そして荒廃した大地から闘技場へと変わったステージにて男の目の前には人形が一人だけ立っている。

『オーオー第一〜四楽章までの戦闘リザルトを計測』

『オーオー特定の条件のクリアを確認』

『オーオー「正典」プログラム実行します』

人形に異変が起きる。

人形の顔に当たる部分に熊を模した仮面が現れ、左手の部分には“オーラを纏った拳”を表した紋章が浮かび上がる。

『オーオー「シユウ・スターリングの紡いだ物語」最終楽章……………「正典：カノンあなたに捧ぐ旋律」』

先に動いたのは人形だった。一瞬のうちに距離を詰めた人形は男が反応する前に男の顔面に向けてパンチを放つ。常人では反応できない速さで放たれる一撃、しかし男はソレを顔を動かすだけで避け、人形の腕を掴みそのまま背負い投げを喰らわせる。咄嗟に人形は受け身を取るが叩き付けられた地面にクレーターができる。叩き付けられた人形はすぐに距離を取り……………と、このような攻防が目に見えない速度で行われていき、

その一つ一つの動作で周囲の地形が変わってゆく。

永遠に続くと思われた攻防、しかし突如その均衡は崩れる。

痺れを切らしたのか人形は突然、男から離れるとある物呼び出した。人形が呼び出した物、それはまさしく戦艦と呼ぶべき物だった。しかもよく見れば男が持つ戦艦と非常に似ていると分かるだろう。戦艦は男に向け、標準を合わせる。

そして、男にいくつもの砲弾が炸裂し、

何かが碎ける音がした。

あたりに煙が漂う中、人形は戦艦を仕舞う。そしてそのまま立ち去ろうとして……気づけば碎ける音と共に殴り飛ばされていた。

人形は困惑する、すぐに体勢を立て直し顔を上げると目の前には男が立っていた。男は右足を頭上に高く掲げており、そのことに人形が気づいた瞬間、男は足を振り下ろす。

……何事もなければ普通この場面、人形の詰みである。男は戦艦の砲撃から「救命のブローチ」と呼ばれる一種の身代わりアイテムを使い生き延びており、「人形」の仕様状男のステータス、装備品などをコピーしている人形も当然「ブローチ」は装備して

いるがその「ブローチ」は、先程の攻撃で砕けており、「ブローチ」は一つしか装備出来ない仕様状、人形には攻撃を防ぐ手段はなくそのままあっけなく粉碎されるであろう。………何事もなければ。

男の足は何かを受け止められていた。ソレは楽器である。バイオリン、トランペット、ドラムなどの大量の楽器群が突如出現し男の足を受け止めていた。男はすぐさま足を引き離そうし、気づく。いつのまにか人形の左手が大砲になっておりまるで充電が溜まったように光り輝いているのを、それを男が認識した瞬間、人形は楽器ごと男を消し飛ばした。

【冥響劇場オルケストラ】

原作との違い

第一〜四楽章までのランダム再現に「マスター」、サブサバー「エンブリオ」も再現されるようになる。

ルート分岐にS、S間の決議ではなく、特定の条件をある程度満たさないといけない

い

分岐条件はどれだけ正確に再現できるか、でありそれには装備やアイテムの一致はもちろん、アイテムやスキルの使用回数であったり、撃破する時間も関わってくる。

ボスラツシユ：シユウ・スターリングの場合

第一楽章 「虎狼共闘」

第二楽章 「永久不変のサイクロン」

第三楽章 「変幻自在な犯罪王」

第四楽章 「女王、進撃」

後書き

戦闘シーン、書くの難しすぎる…

名も無きモンスター編

ウォーバル・サーベイ

作者です。深夜テンションで書き上げて扱いに困ったので投稿します。

やあ！みんな元気？私の名前はキヤメア！

〈Dendrogram・Information・Network〉、略して〈DIN〉
という所に所属している。〈マスター〉の一人さ！

……誰に向かって言うてるんですかねえ私はあ……（困惑）

まあそんなことはどうでもいいとして、今回、私はある調査をしに、ここへノズ森林
に来てまーす！

そういえばここ一回、更地になってるはずですけど今はもうすっかり元通りですね、
大自然すつごい（小並感）

さて気を取り直して調査の内容なんだけど最近、こちら辺で新種のモンスターの目撃
があつてらしいんだよね

目撃者の話じゃある日突然現れ始めてへマスターや付近のモンスターを狩りまくってる感じらしい。しかもそいつの被害者いわく気づいた瞬間にはもう死んでいたとのこと。

で、そんなやつが突然現れるわけないだろ！いい加減にしろ！（なのでDINが）じゃけん調査しましょうねえ、ということであたしが送られて来たってわけ。

それじゃイクゾー！ デッデッデデデ！カーン デデデ

数十分後、

はい、やっと見つけました。いやホントに見つからなかったんですよ、マジで。たぶんレアモンスの部類だと思います、はい。

それでまず見た目は、文字通り二足歩行してる兔です。可愛いね♪

そして今現在、手に持った赫い刃物を石で研いでいます。可愛くないね♪

うわあ（ドン引き）なあれクツソ怖いんだけど。なんでつぶらな瞳の可愛い兔がウッキウキで刃物研いでるんすか、（兔のイメージ）壊れちゃ、う

はっ！いかんいかん、ふざけてないでさっさと調査をしなければ、まあ調査の方法は

至って簡単、動画を撮る、それだけでございます。

なに？デンドロで動画が撮れるわけないだろ！いい加減にしろ！だって？出来ちゃうんだなくこれが！

そう、この私のエンブリオ、「秘像暴写パパラッチ」ならね！

このエンブリオは戦闘能力が皆無な代わりに撮った相手の情報を開示でき、しかも動画に映る時間が長ければ長いほど開示する情報が多くなります！よって、一見、面倒臭そうな調査任務も私の場合なら撮って出て来た情報を写すだけで報告書が出来るのです！

まあそういう訳で私に任せられる仕事の殆どがこういう生態調査系なんだよね！それに比べて先輩はなんか王女の護衛なんか任せられてるし、あんなシスロリコンより日頃の行いはいいはずなのに。

さて、無駄話もここまでにして動画を撮りますか。

ピ（電源入れる音）

ではカメラを兎ちゃんに向けて……

（まつすぐにこちらを見ている兎）

ナズエミテルンデイズ!!（オンドウル語）

やばいやばい！気づかれた！やめろ！来るな！シニタクナーイ！シニタクナーイ！

グエ

後日

「○○さん、カメラアさんからの報告書です。」
「おっ、どれどれ」

報告書

兎は怖い

終わり

「舐めんな!!」ペシイ!

カメラ

今作初のネームドオリキャラ？

作者が「あく気軽にオンドウル語とかそういうネタが使いてなあく」と思ったのが運の尽き、結果ミームに汚染されまくったオリキャラができた。

リアルは歴史関連の仕事をしていてるらしい。

【秘蔵爆写。パラッチ】

形状はスマホ

〈超級エンブリオ〉までなれば例え同じ超級でも撮っただけで相手のステータス、装備、エンブリオ、アイテムボックス、直前までの会話内容などが全て分かる。

兎さん

(なんだった今の?)

先輩

どこの漫画家なんだろなー(目逸らし)

どんなゲームでも金策は大事

作者です。

タイトルは適当

モチベはやばそう

とあるネット記事から抜粋

レジエンダリア、世界樹の麓に作られエルフと妖精、亜人達が多く住んでいる。

特徴として様々な亜人が住み、高度な魔法技術を持ち、なによりヘント……個性的な
マスターが多い。

そんなレジエンダリアで今一番ホットな場所がある。

その場所は、〈水晶巢崖〉

またの名を国家指定禁足地〈水晶地獄〉

〈水晶巢崖〉とは？

〈水晶巢崖〉、レジエンダリアの国境付近に位置し、ほとんどが水晶に覆われた渓谷である。その歴史は古く、少なくとも600年前にはすでに存在していたと言われ年々水晶の侵食が広がっている。

また、このような特殊な地形なためこの地独自の固有種が住みその固有種達によって独自の生態系が築かれている。

一見、これだけ聞くと態々国家指定にするほどでもないと思えるが問題はこの固有種にある。

固有種の名は〈水晶群蠍クリスタルスコーピオン〉

水晶群蠍について分かっていることは少ない。

一つ体が水晶でできており水晶に擬態すること。

一つ振動を感知すると襲い掛かり、一体が感知すると連鎖的に数十体の水晶群蠍が起動しその全てが襲い掛かって来る。

一つ知能が高く周囲の水晶群蠍が結託し獲物を追い詰めるチームワーク性を持っている。

尚、これらは〈マスター〉達の検証によって判明したものでありまだ水晶群蠍の生態

の多くは謎に包まれている。

過去にレジェンダリアは今まで多くの調査隊を水晶巣崖に送ってきたがそのほとんどが全滅している。

また〈ハマスター〉達による攻略もいくら〈エンブリオ〉でも相手に有利な地形、ディーンの軍隊と比べ物にならないチームワーク、そして何よりも圧倒的な数の暴力には勝てずいくつもの〈ハマスター〉をデスペナにしてきた。

とまあそんな危険な固有種が住み着く水晶巣崖は国家指定禁足地となり〈ハマスター〉からも不人気な場所とされ長年放置されていた。

しかしそんな状況は突如一変し、今ではレジェンダリア一番の人気スポットとなり水晶巣崖には多くの〈ハマスター〉の姿が見えていた。

そこで私は水晶巣崖へ向かう〈ハマスター〉ヘインタビューを実施した。

Q あなたは何故水晶巣崖へ行くのか？

匿名A

「何故ってラピステリア目当てにですけど知らないんです？」

匿名B

「ラピステリア掘るために決まってるんだよなあ」

匿名C

「ラピステリア……ですかねえ」

匿名S

「弾代で所持金の半分逝ったからその補填に来たクマー。ラピステリアで一気に儲けるクマー。」

匿名D

「もちろん水晶群蠍ちゃんに会うために決まってる！他の人は害虫だの糞蠍だの言うが私は違う！なあ君も蠍は最高だと思うよな！だから蠍最高と言いなさい蠍最高！蠍最高！蠍最高！蠍最高！蠍最高！蠍最高！蠍最高！蠍最」

インタビュ어의結果へマスターの多くが「ラピステリア」というのを目的に来ているのが分かった。しかし「ラピステリア」とはなんなのか私は専門家の元へ話しを聞きに行った。

専門家は語る。

「えー「ラピステリア」とは正式な名称ではなく「ラピステリア星晶体」という鉱物の略称です。この鉱物はあるへマスターによって比較的最近発見されました。まるで星空をそのまま固めたような美しい見た目をしており極めて多量の魔力を蓄積する性質を持ち、

その見た目や性質から主に装飾品や、錬金術の媒体、〈マジンギア〉などの兵器の燃料に使われるようになりました。

そんな汎用性の塊だったために各国での需要が爆発的に増加しますが採取できる場所があつた水晶巣崖なため安定的な供給が難しく今も尚「ラピステリア」の貴重価値が上がり続けているのです。」

なるほど。

「そして本題はこれからで最近今まではまったく違う採取方法が発見されたのです。従来の採取方法は何十人もの囷役の〈マスター〉を使い囷が全滅する前に採取して持つて帰るという方法でしたがそれでもせいぜい10〜17で需要にまったく追いつかず、そもそも持つて帰ることすら難しい。ですがある日〈マスター〉達は気付いたのです。」

何に気付いたんです？

「逆に考えるんだ、死んじやってもいいさと」

???

「要するにこれ無理に囷を使って持つて帰るよりも囷役の〈マスター〉も一緒に死ぬまで採取し続けた方がいいってことです。デンドロって死んだらアイテムいくつかドロップするじゃないですか。でもドロップした数よりインベントリにアイテムが残つてればそれでいいんです。仮に50人の〈マスター〉でやってインベントリに1個しか残ら

ない計算でも大体50個手に入るわけですからね。従来と比べても手軽にできるし。」
そう専門家の話を聞き終えた頃にはすっかり日が暮れており私は意気揚々と水晶巢崖へ向かうへマスター」達が通り過ぎるのを横目に帰路に着く。

そして朝日が昇り今日もまた多くのへマスター」が金策の為水晶巢崖へと向かうのであった。

〈水晶群蠍〉

シャンフロの方とは違い天鳥頭のやべーやつ敵がないので平和

この話でる予定だった没UBM紹介

【皇金時代 ゴールドラッシュ】

簡単に言うくと蠍を生み出すだけのUBM。でも生み出す量が馬鹿みたいに多いし生み出された個体も帝晶双蠍と金晶独蠍のカメラみたいな性能なので地獄。

最初はお出そうと思っただけ迷走しまくったので没に

エリアボス狂奏曲

Q インフルになってモチベ下がってFGOにどハマリして今日まで小説書くのを忘れてたのは誰だあっ!!

A 私だあっ!!!

どうもさすがにそろそろ投稿しようと思った作者です。

皆さんシャンフロ見えますか?アニメ良いですね。

特にペンシルゴンは完全に解釈一致でした。

今回はエリアボスが主役です。まあ出てくんの1体だけですけどね。

とある平原にて一体のモンスターと1人の〈マスター〉の男が対峙していた。

そのモンスターは一言で言うなら蛇、ただし普通の蛇とは違いその体長は人の身を遥かに超えている。さらに頭部と尻尾に爬虫類とは思えない、真っ白のサラサラとした髪が生えており名を「貪食の大蛇」という。

それに対して「ヘマスター」の方を一言で言うなら「始めたての初心者」である。

防具はその辺の店で買える革鎧、武器は安物の片手剣を二刀装備していて、革鎧の上に男の「エンブリオ」らしき羽織を着ている。

まさに the 初心者というべき風貌。

実際、彼はデンドロを始めたばかりで、レベルも10前後と言った所である。

確かに「貪食の大蛇」自体初心者用のボスで推奨レベルが10となっている。が、しかし同時に「貪食の大蛇」の推奨人数は3〜4人である。

腐つてもレイドボスであるこのモンスター、いくら推奨レベルが10でもそれは挑む人数が3〜4人前提の話で普通は彼のレベルで一人で勝てる用なボスではない。

文字通りの始めたての初心者である彼ではすぐに死んでしまう……………そう思われた。

「ヘマスター」の男とモンスターが対峙してから30分、戦況は「ヘマスター」の方に傾いていた。

モンスターは嘯みつきや突進、尻尾による薙ぎ払いなど様々な攻撃を繰り出す。男はそれらを時に避け、時に防ぎながら巧みに処理し返しに自身の攻撃を当て着々とモンスターへダメージを蓄積させていた。

本来ならあり得ない光景、それを可能にしているのは男の「エンブリオ」である。

羽織型「エンブリオ」、【二刀無双ムサシ】。

ムサシが内包するスキルの内容は両手にアイテムや武器を所持していれば自身のステータスと所持しているアイテムや武器の性能を引き上げるといふ物。

このスキルを使うことで男はモンスターの攻撃を処理したりモンスターの持つ硬い鱗を貫通してダメージを与えることに成功していた。

勝てる。男はそう思う。このままいけば確実に勝てる。初心者の自分が明らかに格上な相手に。もしそうなればそれはもうスカツと爽やか、まるで正月元旦の朝に新しいパンツを履いたみたいなること間違いなし。

そう油断した瞬間男にとてつもない不幸が襲いかかる。

男の顔面に何かがぶつけられた。

それは「貪食の大蛇」が放った毒。

当然の如く駄文注意。

ある日、沼荒野にて

作者です。

最近 *fa te* にハマってましてそれで突然個人的にめっちゃくちや面白いネタが浮かんで来まして、小説書こうとしたんですけど自分の文才がなさすぎて泣いた。あと才子が令呪で自害しろ〇〇〇〇〇〇しか思いつかない。

四駆八駆の沼荒野、それはこのへ *Infinite Dendrogram* において全マスターが選ぶ嫌いなエリアランキングにて上位に入っている不人気エリアである。

不人気の理由は様々だが主な理由として広大な沼地帯が挙げられる。

沼の中では一部を除き、全てのマスターまたはモンスターなどが足を沼にとられ強制的に歩み状態となる。

そのためマスターは無駄に広いエリアをノロノロと歩き続けなければならずそれがとてもストレスが溜まるのである。

そのためわざわざこんなエリアに来るマスターなどほとんどいないのだが、珍しいことに1人のマスターが訪れていた。

「あ、あゝ〜視界いっぱいのカソ茶色〜」

∴訂正、途方に暮れていた。

彼女の名はカメラ、〈D I N〉所属で主にモンスター関連を担当し、〈エンブリオ〉の相性もあつて〈D I N〉内でも評価が高かったが以前※ウオーバル・サーベイ参照の調査であまりにも適当な報告書を提出し、なんやかんやでクビ直前まで追い詰められてしまった割と自業自得なマスターである。

そんな彼女が何故こんな不人気エリアにいるのか、その理由はカメラが報告書を提出した数日後まで遡る。

・回想

『(報告書見て)なんだこれは、たまけだなあ、ヨシ!カメラお前船降りろ!! (要約)』

『イヤツイヤ、イヤ!!!』

『じゃあなんか未発見のモンスターでも撮ってこいや。』

『やってやろうじゃねえがコノヤロー!』

・終わり

まあそういうことで上司に思いつきり啖呵を切ったカメラだがすでにサービス開

始から数年経過したへInfiniteDendrogram、そう簡単に未発見のモンスターが見つかるわけがなくあてもなく探し回り、いつのまにかこんな不人気エリアで途方もなく彷徨っているのであった。

「新……モンスター……ど……ど……ど……？」

やあ、みんな元気かな？

上司相手にとんでもねえ啖呵切っちゃたカメラアだよ。

……やべえよやべえよ、なんで私あんな無茶振り受けちゃったんだよ、無理でしょ。もうデンドロがサービス開始して何年経ったよ？無理でしょ。

でもなー撮れなきやクビだしなーどうしよっかなー

「……………ゲコ」

「あん？」

ふと気がつくと私の足元にカエルがいた。カエルは隣にいる私のことなど気にせず泥遊びをしていた。

……………てかこいつ新モンスじゃね？

「パパラッチイイ!!!」

「ゲキョオツ!?!」

すぐさま自分の〈エンブリオ〉を発動しつつ件の新モンス疑惑のカエルを腕でホールドする。

「情報おいてけ!!なあ!新モンスだろお前!!」

「ギョエエ!!」

はえーあなた「マッドフロッグ」てつ言うのねえー!!てか可愛いねえ!!とても愛嬌があつてよろしくてよ!!

じゃれ合う一人と一匹、傍目から見たらとても和気あいあいとした光景（本人達にとつては別として）、しかし決してここは動物園によくあるふれあいコーナーなどではなく、仮に他のモンスターがいればカモにしか見えない光景……………

故にこうなるのは必然であつた。

「可愛いねえ〜グエツ」

「ゲツ?」

突然の衝撃、混乱する暇もなく彼女とカエルは空中へと跳ね飛ばされる。

「一体……………何が…ツ!?!」

未だ上昇し続ける体、移り変わる視界の中彼女は見つけた。

鯨に酷似したフォルム、ヒレの代わりに四肢を持ち鯨の髭を生やしたそれは、例え種

族が違っていたとしてもあまりにも分かりやすい満面の笑みを浮かべ、彼女はそんな表情を見て全てを悟った。

「デメー！何してんだアアアアア！」

地面激突10秒前、彼女はそう叫んだ。

後日、結局あのカエルは新モンスターでも何でもなく普通に地元民に知られており図鑑にも載っていた。

しかし上司の「とても愛嬌があつて良い」と言う謎裁定によりキャメアは無事にクビの危機から脱したのであった。